



室蘭工業大学地域共同研究開発センター センター ニュース 平成21年度 2. 事業推進検討会

雑誌名	室蘭工業大学地域共同研究開発センター センター ニュース
巻	21
ページ	7-10
発行年	2010-05
URL	http://hdl.handle.net/10258/00009345

2. 事業推進検討会

会の目的：

この会は、室蘭工業大学の教員と民間企業等の者が意見交換等を行うことにより、室蘭工業大学地域共同研究開発センターの事業推進に資することを目的とする。（室蘭工業大学地域共同研究開発センター事業推進検討会規約第2条）

開催日：平成21年7月3日（金）15:00 ～ 17:00

場所：室蘭工業大学 事務局 中会議室

出席会員：（学外）秋山 俊彦，安藤 栄聖，伊藤 秀明，鴨田 秀一，木村 貢
中田 孔幸，牧内 勝哉，伊東 肇，（学内）伊藤 秀範，世利 修美

オブザーバー：北海道経済局

関係大学職員：野口 徹，加賀 壽，鈴木 雍宏，朝日 秀定，関川 純人，石坂 淳二
伊庭野 洋，花岡 裕，木村 政和，川岸 斉，依藤 充明，黒島 利一

検討会概要

野口理事（地域連携担当）より挨拶があり、その後会長、副会長に各々伊藤秀明氏、世利修美氏が選任された。伊藤会長が議長として会議を進行した。出席者全員の紹介後、加賀センター長より、平成20年度のセンターの活動と21年度事業計画の説明があり、その後センター活動に対する質疑応答と意見の提言がなされた。

野口理事挨拶の骨子：

先ごろ昨年（平成20年度）の活動実績の報告と第2期中期目標、中期計画を取りまとめ文科省へ提出した。その中で室蘭工業大学の使命として教育・研究と共に地域における知の拠点としての役割と産学連携での地域への貢献を挙げた。具体的には、知的財産本部と地域共同研究開発センターが一体となり新技術を普及し、地域の活性化に寄与する。2番目に産業界、官界、金融界との人的ネットワークの活性化強化を図る。3番目に、国あるいは社会からの人材事業育成に応える教育プログラムを策定して実施することを明記した。地域貢献に関しては、日経グローバルによる全国の大学調査で昨年度も総合2位、国立大学法人では全国第1位の評価を得ている。この評価を確固たるものにするのが本学の大きな使命と思う。

これからの産学連携はシーズ主導からニーズ主導と言われている。従って地域の問題を研究テーマに、それを基に世界に通じる学生教育を行うのが大切である。研究成果が地域の活性化に寄与することが望ましい姿である。

加賀センター長の平成20年度のセンターの活動について説明の骨子：

平成20年度の特徴的なものを紹介する。研究協力会は57社が入会している。センターのロビーに研究協力会の会員企業名を掲示している。2階に研究協力会談話コーナーを設けた（末尾資料参照）。また、専任コーディネーターは地域企業への御用聞きをしている。

平成21年度は主に20年度活動と同様の内容を行うが、更に大型受託研究への応募の支援を行う。例えば、鳥瞰的人材育成、東京都市大学との連携、原子力人材教育支援プロジェクト、シップリサイクルへ

の支援, 更にベチュリンを白樺外樹皮から抽出・精製する製造方法と事業化開発に向けた仕組みを構築するために「地域イノベーション事業」への応募支援を行う。企業ニーズの把握, 学内外との連携強化を図り, 地域への貢献と外部資金の獲得に力を傾注したい。大きなプロジェクトへの申請に地域自治体の協力も得るべく活動をする。

質疑応答骨子：

平成20年度活動報告に関して

- 1) 問：日経グローバルによる地域貢献度の評価の内容とはどんなものか。

答：問項目は30～40項目あり, 各1.5点の重みが付けられている。特に各機関との連携の得点が高い。

- 2) 問：共同研究で件数が減って, 受託研究が伸びた理由は。新規と継続の割合は。共同研究, 受託研究のきっかけは。アンケート集計結果で教員が委託者等とのコミュニケーションをよくとるのが評価を高くするというが, この情報を学内支援に使っているか。

答：国の委託。受託事業が増えたことによる。継続分は25件くらいで毎年推移している, 60～70件が新規である。共同研究, 受託研究のきっかけは, 教員個々のつながりによる割合が高い。アンケート結果は教員に周知していきたい。研究シーズ集の配布と追補の配布を一層すすめたい。

- 3) 問：高度技術研修での集客のテクニックは。

答：産学連携で, 講師陣の協力がポイントである。今起こっている問題を講師陣から挙げていただきテーマにしている。

- 4) 問：医療分野への参入は困難が多い。札医大との連携で具体的な話題はあるか。道工試の場合はどうか。札医大は生物学が基本なので工学が入る分野は狭い。旭川医大は札医大とは多少違い遠隔地診断を進めている。また, 留萌市立病院で治験を行う体勢を, 道, 市と組整えた。分野の特化が大事ではないか。また, 商社や企業は, 医療ニーズの中で自分の都合もあるので, 必要な情報を出したり聞かなかったりすることもある。公平な立場で仕切る必要があると考えるが。

答：具体的な話には至っていない。札医大から, 地元室蘭の病院のニーズを使ってはどうかとのアドバイスがあり, その方向の活動をしている。道工試も札医大からのニーズはほとんど入ってこない。医療産業研究会は未だスタート段階である。商社のチャンネルを使ってニーズの把握をしたい。医療産業は研究と異なる。産業への展開は企業の固有技術と合わないと出来ない。研究とは分けて考える必要があると思う。今のところ, ニーズの振り分けを仕切ることはしていない。まだ, 情報を集める仕組みづくりの段階である。その方向で, 今年度も進める。

- 5) 問：建設業協会より, 室蘭工業大学は敷居が高いとの話がある。共同研究でも地元との件数が少ない。この地域には何か理由があるのか。

答：研究シーズが地元のニーズに合わないのが1つある。イベントを考えて今後も接触の機会を作ってくつてはどうかと考えている。

- 6) 問：平成20年度成果の説明では少ないが, 成功した事例を入れるようにして欲しい。多分3, 4件はあると思う。

答：紹介できる事例は少ないので, もう少し時間が欲しい。成功事例はあるが裁判で社会貢献したものもある, 出せないものもある。すでに, 社会的に技術が広まっている例もある。今後は, 成功事例を入れるようにする。

平成21年度計画に関して

7) 問：重点活動に自治体との連携事業を挙げている理由は。

答：今年度は室蘭市から派遣されている准教授がいる。これを活用して、市と大学のニーズの伝達を円滑にし、連携事業を進めたい。また、市職員の教育プログラムを行う連携の支援をしていきたい。

8) 問：事業計画の目標設定は共同研究、受託研究につながるように因果関係をもっているのか。

セミナーなども目標を設定し、成果を評価した方が良いのではないか。

答：そうではない。大学の知を利用した社会貢献はもっと広い意味でとらえている。ビジネスライクなものと研究とに分けて考えている。セミナーなどは、社会ニーズに合うものを行っている。評価は一口では申し上げられない。

意見

意見1：共同研究、受託研究、外部資金のレポート、申請書の書き方の指導をしてはどうか。

意見2：コーディネーターには学内向け、学外向け、学内外をつなぐ3人は要と思う。HiNT、ノーステック財団にはそのようなミッションのコーディネーターがいる、連携をとって欲しい。金融関係もCRDセンターの連携支援会議に入っている。連携していかないと、今後は立ち行かない。

意見3：近年学生に変化が出てきた。自分の卒業研究等が、産業界のどの分野で役立つかを明確に答える学生が増えてきた。教員の姿勢が産業界に近づいてきた現れと思う。

資料：平成20年度の事業活動・成果

(1) 研究者シーズの紹介

- ・ HiNT連絡会を活用した企業ニーズ把握とシーズ紹介(2件)
- ・ 研究シーズの紹介(函館：52名、白老町：35名)
- ・ 室蘭商工会議所建設部会（15名、2テーマ紹介）
- ・ 信州大学との合同シーズ紹介（65名、3テーマ）

(2) 地域大手との研究交流の促進と共同研究への支援(2回、12社)

(3) 大学間の連携事業

- ・ 札幌医大との共同研究に向けた交流事業、共同研究への支援(共同研究2件)
- ・ 小樽商大、札幌医大と連携し北海道医療産業研究会設立(セミナー3回)
- ・ 室蘭工大-札幌医大-小樽商大合同企画フォーラム
「地域社会における医療介護、福祉の最前線」(室蘭市)

(4) 出展

- ・ フォーラムでの出展(西いぶりの企業力、伊達市)
- ・ 第21回北海道 技術・ビジネス交流会の展示会への出展(2テーマ)
- ・ 北海道ビジネスフォーラム2008(4テーマ)
- ・ 産学官連携推進会議(京都)への出展参加(2テーマ)
- ・ イノベーションジャパンへの出展(2テーマ)
- ・ 彩の国ビジネスアリーナ2009(5テーマ出展)
- ・ 北海道新技術・新工法展示商談会(ニッサン、神奈川県、2テーマ)

- (5) 室蘭テクノセンターと連携したセミナー，交流会の開催他
 - ・ 本学教員の研究シーズ紹介(2回)
 - ・ 異業種交流「創造」，「室蘭地域環境産業推進コア」の例会参加と支援(1回／月)
 - ・ 月例コーディネーター連絡会議(12回)
 - ・ 地域企業訪問(15社)
 - ・ 大学・企業技術交流会，セミナー「モノづくりへの挑戦」(150名)
 - ・ 五者懇談会(隔月)
- (6) 技術相談・企業訪問(48件・CRDセンター単独59社)
- (7) 共同研究・受託研究
 - ・ 共同研究件数・金額(88件・104,386千円，胆振地域22%，他の道内31%，道外47%)
 - ・ 受託研究件数・金額(35件・155,676千円)
 - ・ プレ共同研究(5件，研究協力会の支援による)
- (8) 出版物および広報
 - ・ センターニュース発行，研究報告発行，ニュースレター発行(6回)
 - ・ CRDセンターホームページでの紹介
 - ・ CRDセンターパンフレット作成
 - ・ 腐食防食センター紹介HPの改訂，パンフレット作成
- (9) 高度技術研修(「建築設備の防食技術講習会」受講者：東京64名，函館72名)
- (10) 客員教授による共同研究やCRDセミナー(8回)
- (11) 研究シーズ集のシーズ追加作成(研究シーズ22名分)
- (12) 地域間交流会，道内高専との連携事業
 - ・ 苫小牧高専，千歳科学技術大学との合同企業見学会(苫小牧，千歳)
- (13) CRDセンター評価支援検討会等の開催
 - ・ 研究協力会役員会及び総会
 - ・ 事業推進検討会
 - ・ 室蘭工業大学連携支援会議(6回)
- (14) その他
 - ・ IM連携支援会議の開催(23名)
 - ・ 共同研究のアンケート調査と調査解析によるフォロー
 - ・ 大型プロジェクト事業の企画，申請，推進(6件)
 - ・ 大手企業との大型共同研究に向けた情報交換会(8回)とそのアプローチ(3件)
 - ・ 共同研究後の新規企業化に向けた支援(含む産学プロジェクト申請2件)